

令和4年度自転車利用と地産地消・食育及び「みえの安心食材表示制度」、「みえジビエフードシステム登録制度」に関するアンケート

地域連携部 交通政策課
農林水産部 フードイノベーション課

〔アンケート概要〕

- (1) 実施期間 令和4年5月18日(水) から 同6月6日(月) まで
- (2) 対象者数 1,389人
- (3) 回答数 1,000人
- (4) 回答率 71%

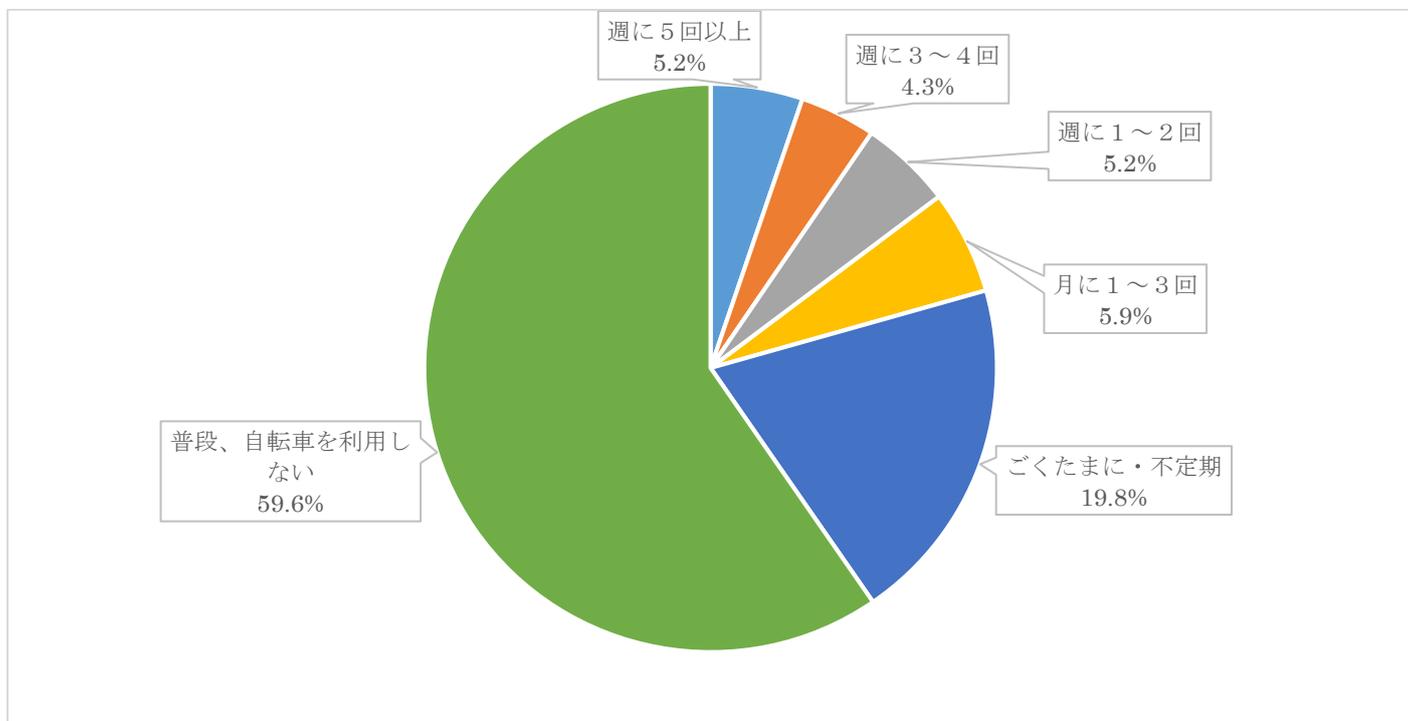
●アンケート結果の概要及び簡易分析について

※各グラフの割合は、少数第一位を四捨五入しております。(Q8, 10, 12, 13)

※自由記述の回答は、表現を一部変更しております。

Q1 自転車の利用頻度について

あなたは、自転車をどれくらいの頻度で利用していますか。(択一)
(「普段、自転車を利用しない」と答えた方はQ6に進んでください。)

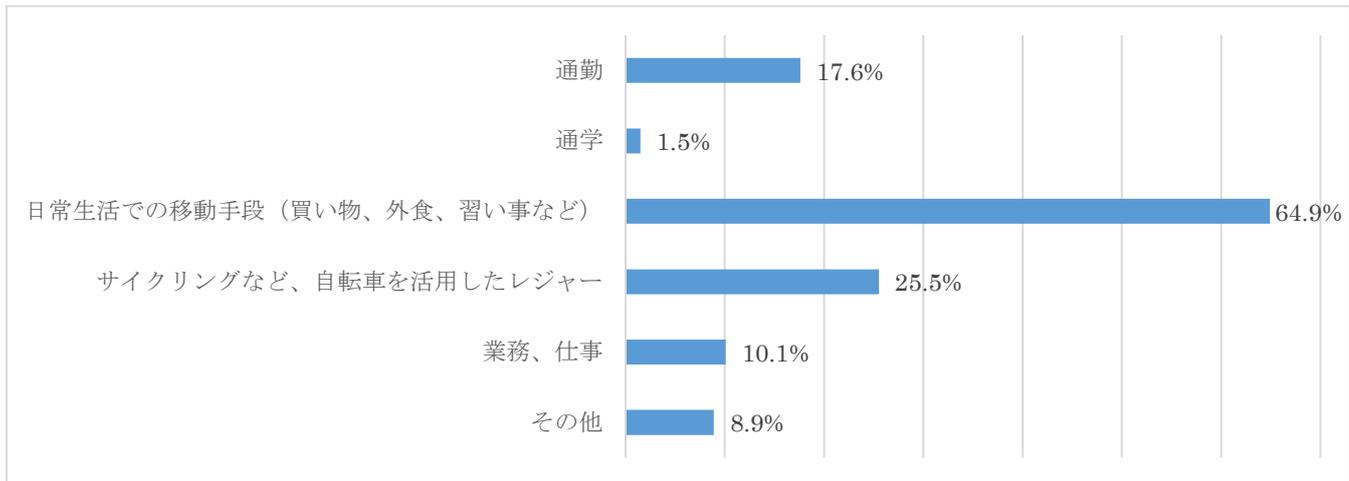


自転車の利用頻度を聞いたところ、「週に5回以上」「週に3～4回」「週に1～2回」「月に1～3回」「ごくたまに・不定期」を合わせると40.4%でした。「普段、自転車を利用しない」と回答した方は59.6%でした。

Q2 自転車を利用する目的について

(※Q1で自転車を利用すると答えた方のみ回答)

あなたが、自転車を利用する主な目的は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。
(複数回答可) ※通勤、通学には一部に自転車を利用する場合も含まれます。



自転車を利用する目的を聞いたところ、「買い物など日常生活での移動手段」が64.9%で最多でした。自転車を通勤に利用している方の割合は17.6%でした。

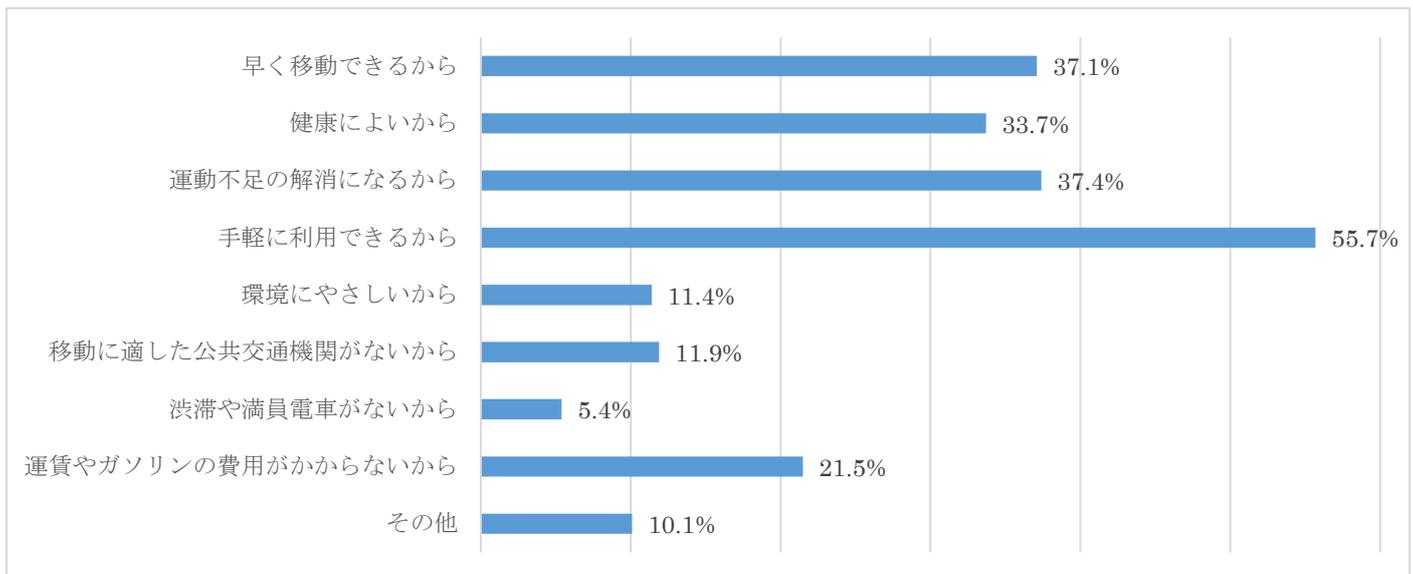
なお、その他の回答としては次のような意見が寄せられました。

- ・子どもの送り迎え
- ・運動のため

Q3 自転車を利用する理由について

(※Q1で自転車を利用すると答えた方のみ回答)

あなたが、自転車を利用する主な理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。
(複数回答可)



自転車を利用する理由を聞いたところ、「手軽に利用できるから」が55.7%で最多でした。次いで、「運動不足の解消になるから」が37.4%、「早く移動できるから」が37.1%、「健康によいから」が33.7%でした。

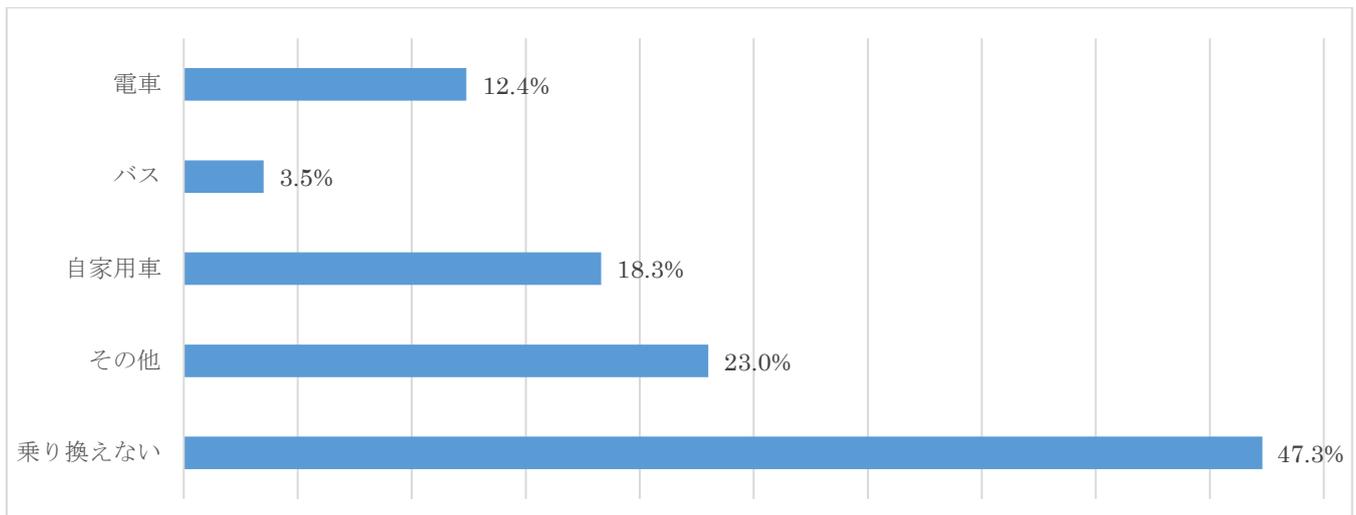
なお、その他の回答としては次のような意見が寄せられました。

- ・子どもと一緒に乗れるから
- ・自動車の運転が苦手だから
- ・駐車場がないところでも行けるから

Q4 自転車から他の交通機関等への乗り換えについて

※Q2で「通勤」と答えた方のみ回答)

現在あなたが自転車通勤する際、他の公共交通機関等に乗り換えることがありますか。あてはまるものを全て選んでください。(複数回答可)

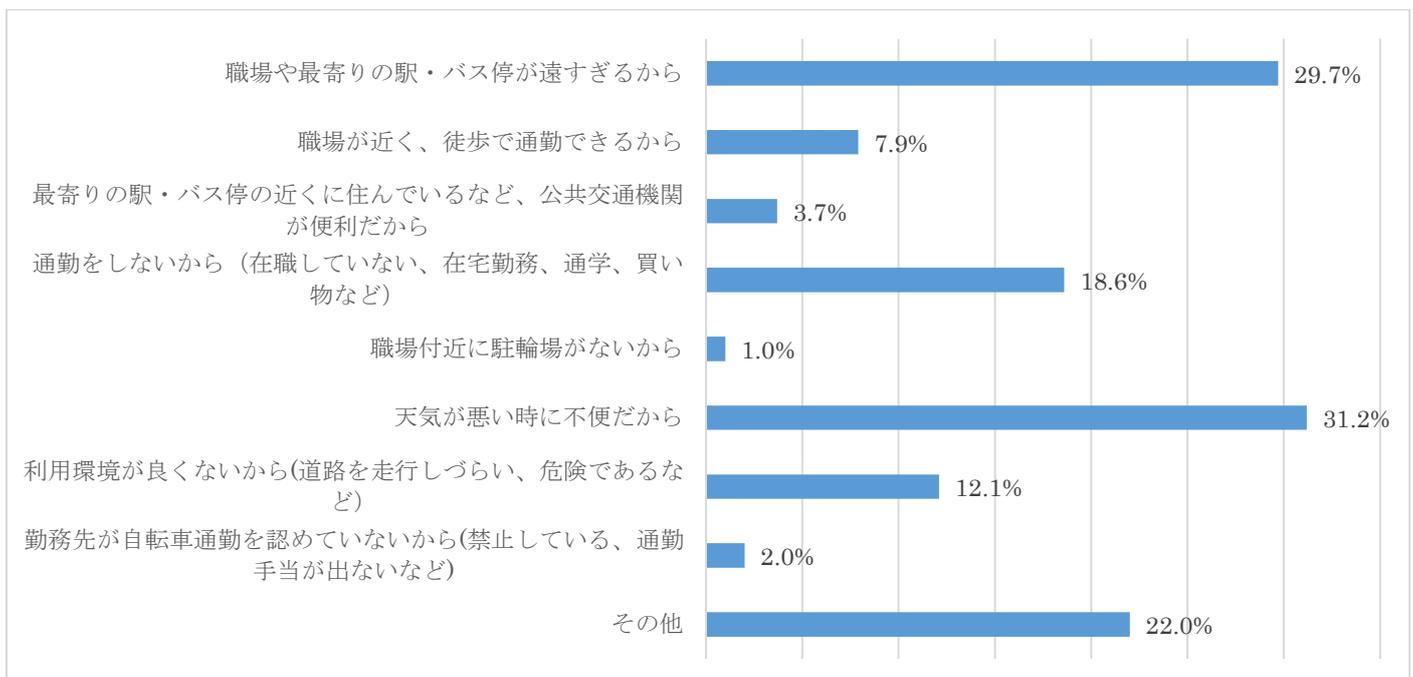


自転車から他の交通機関等への乗り換えについて聞いたところ、「乗り換えしない」が47.3%で最多でした。一方、「自家用車」へ乗り換える方が18.3%、「電車」へ乗り換える方が12.4%、「バス」へ乗り換える方が3.5%でした。

Q5 通勤で自転車を利用しない理由について

※Q2で「通勤」と回答しなかった方のみ回答)

あなたが、通勤に自転車を利用しない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。(複数回答可)



通勤に自転車を利用しない理由を聞いたところ、「天気が悪い時に不便だから」が31.2%で最も多い回答でした。

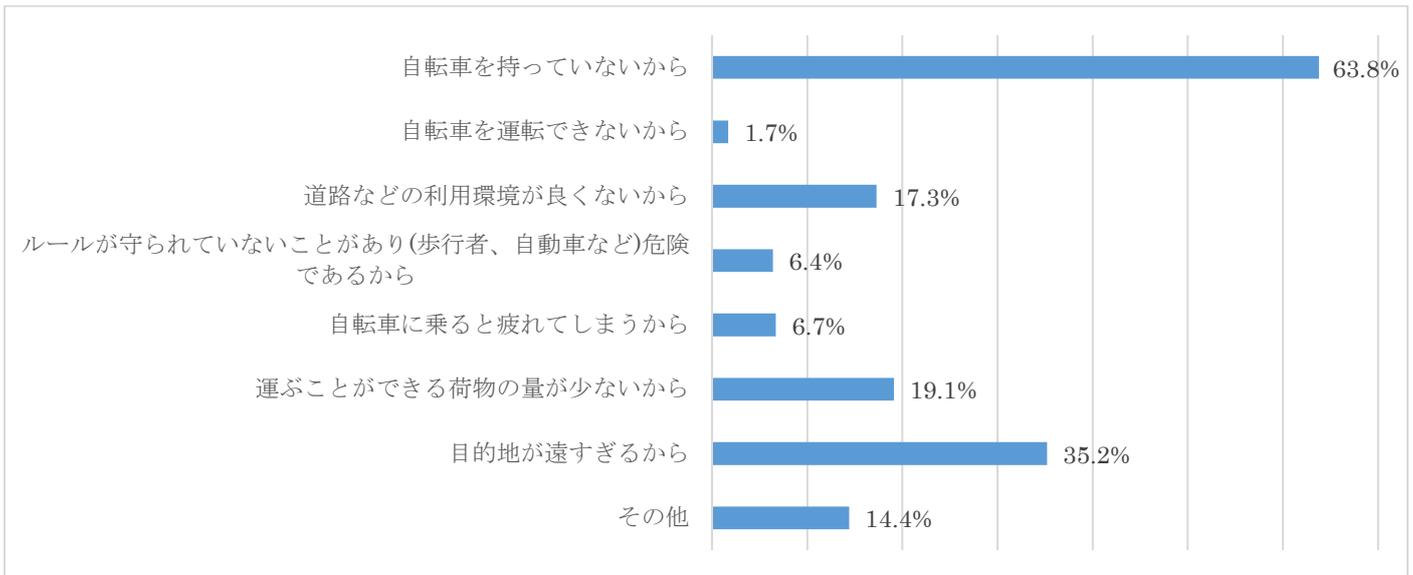
なお、「その他」の回答としては次のような意見がありました。

- ・荷物を運べないから
- ・自転車で移動するには遠すぎるから

Q6 普段、自転車を利用しない理由について

※Q1で「普段、自転車を利用しない」と回答した方のみ回答)

あなたが自転車を利用しない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。(複数回答可)



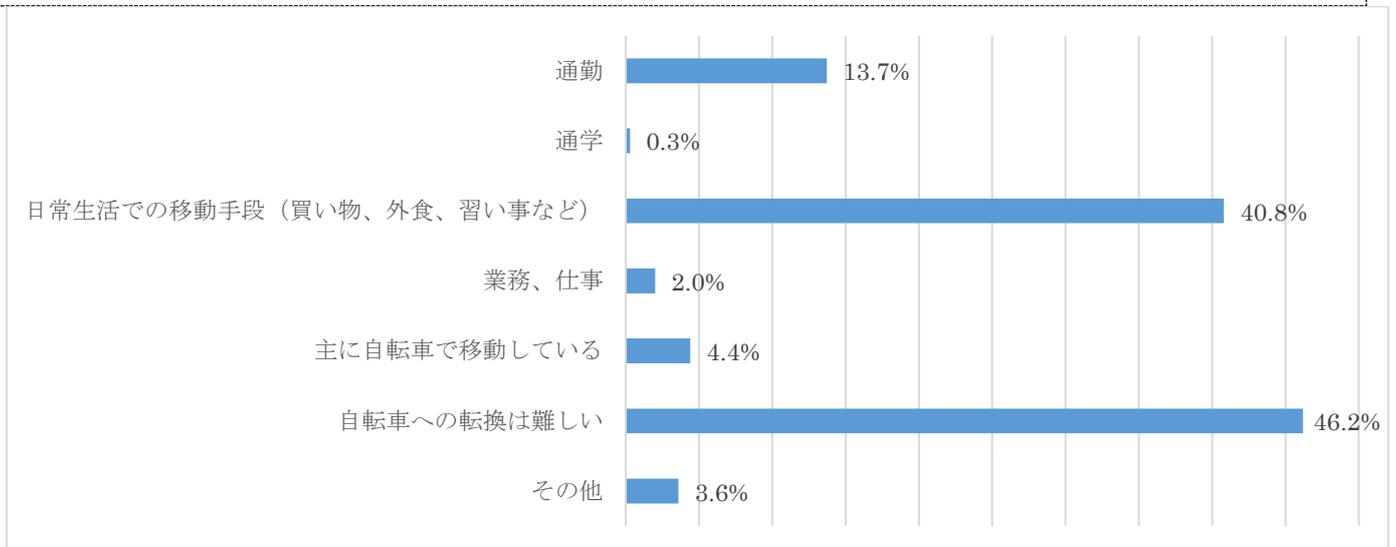
普段、自転車を利用しない理由について聞いたところ、「自転車を持っていないから」が63.8%で最も多い回答でした。

なお、「その他」の回答としては次のような意見がありました。

- ・車や徒歩で足りるから
- ・駐輪場所を確保できないから
- ・急勾配の道が多いから

Q7 自転車への転換について

現在あなたの自転車以外での移動のうち、自転車への転換が可能な移動目的はありますか。あてはまるものを全て選んでください。(複数回答可)



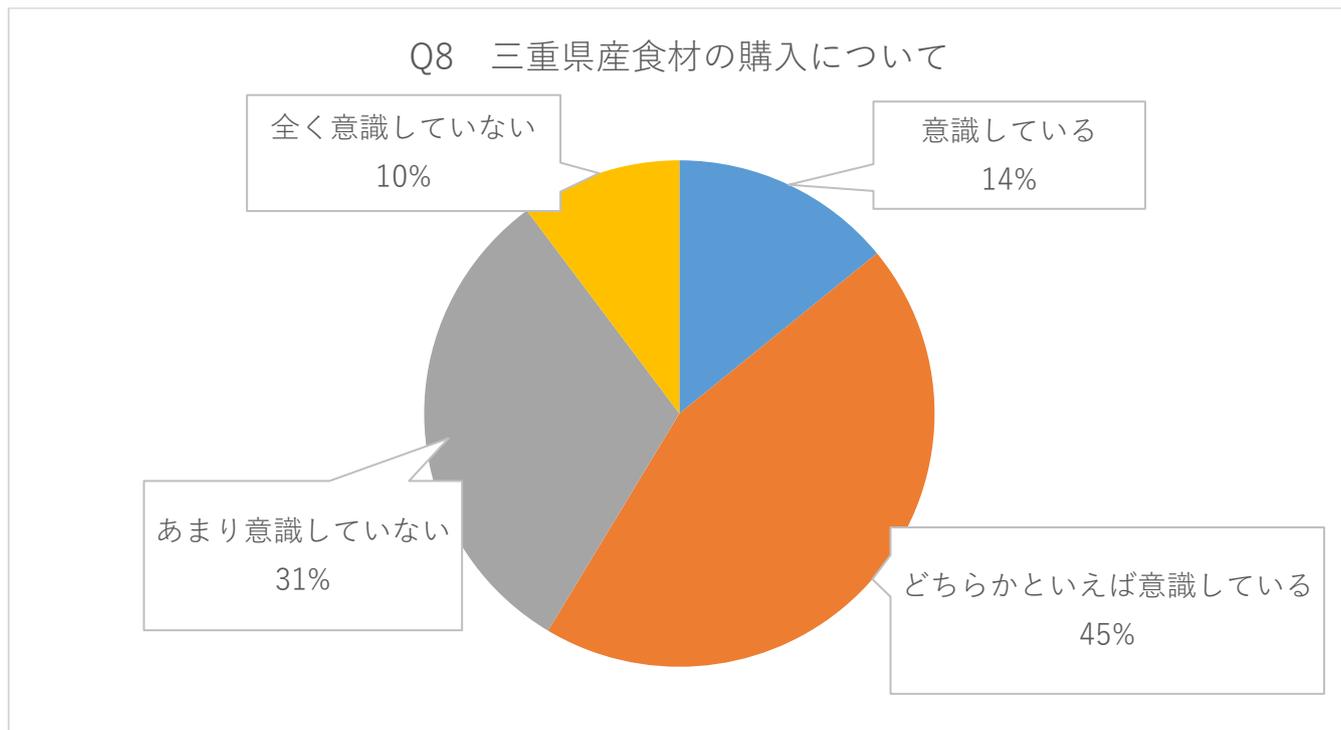
自転車以外での移動のうち、自転車への転換が可能な移動目的について聞いたところ、「自転車への転換は難しい」が46.2%で最多でした。一方買い物など日常生活での移動手段については、転換可能であるとの回答が40.8%ありました。

なお、「その他」の回答としては次のような意見がありました。

- ・育児中で自転車移動が難しい
- ・徒歩で生活を営めるため、転換を考えていない

Q8 三重県産食品の購入について

あなたは、食品を購入する場合に、三重県産の食品を意識して購入していますか。(択一)



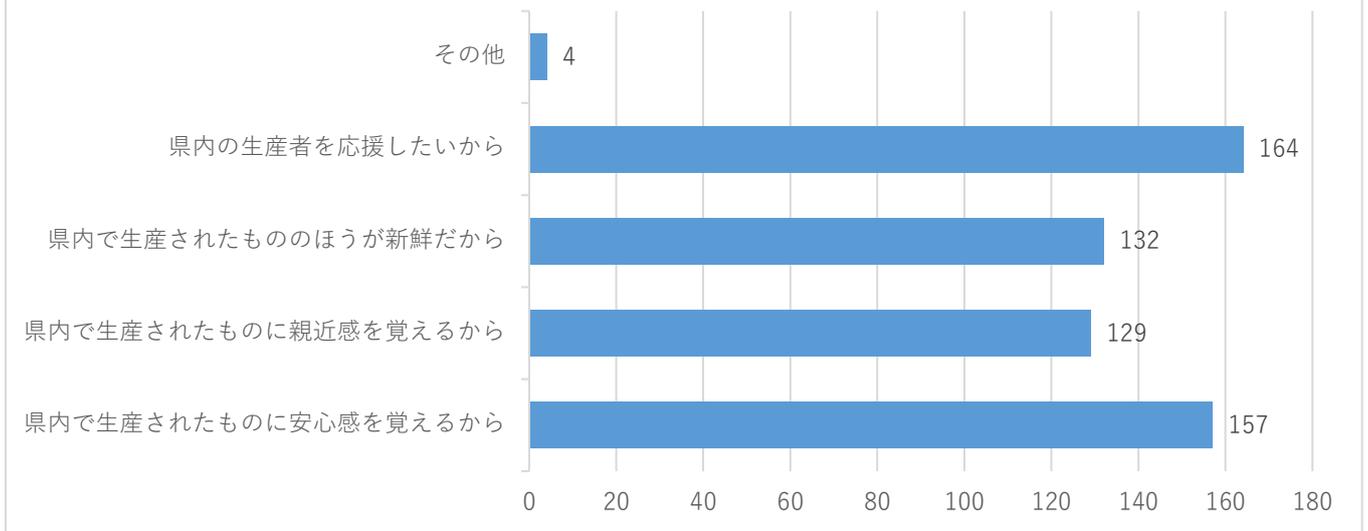
「意識している」は14%、「どちらかといえば意識している」は45%、「あまり意識していない」は31%、「全く意識していない」は10%でした。

約6割の方が、県産品の購入を意識されていることがわかりました。

Q9 三重県産を積極的に選ぶ理由について

Q8で「意識している」又は「どちらかといえば意識している」を選んだ方にお伺いします。その理由を教えてください。（複数回答可）

Q9 三重県産を積極的に選ぶ理由について



合計で 586 の回答がありました。「県内の生産者を応援したい」が 164 人と最も多く、次いで「県内で生産されたものに安心感を覚える」が 157 人、「県内で生産されたもののほうが新鮮だから」が 132 人となりました。

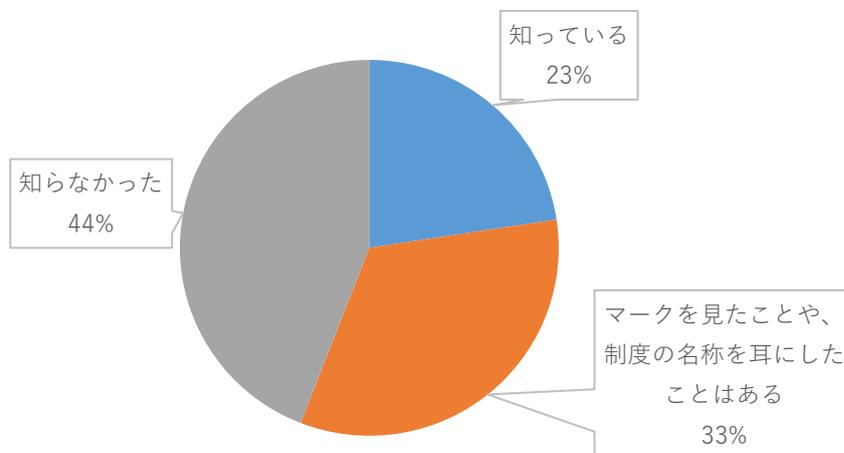
なお、「その他」の回答としては、次のような意見が寄せられました。

- ・新鮮で安い野菜が魅力的だから
- ・その土地のものを食べるのが体にいいと思うから
- ・輸送エネルギーの削減ができるから
- ・県内の経済循環につながるから

Q10 「みえの安心食材」について

あなたは、この「みえの安心食材」をご存知でしたか。（択一）

Q10 「みえの安心食材」について

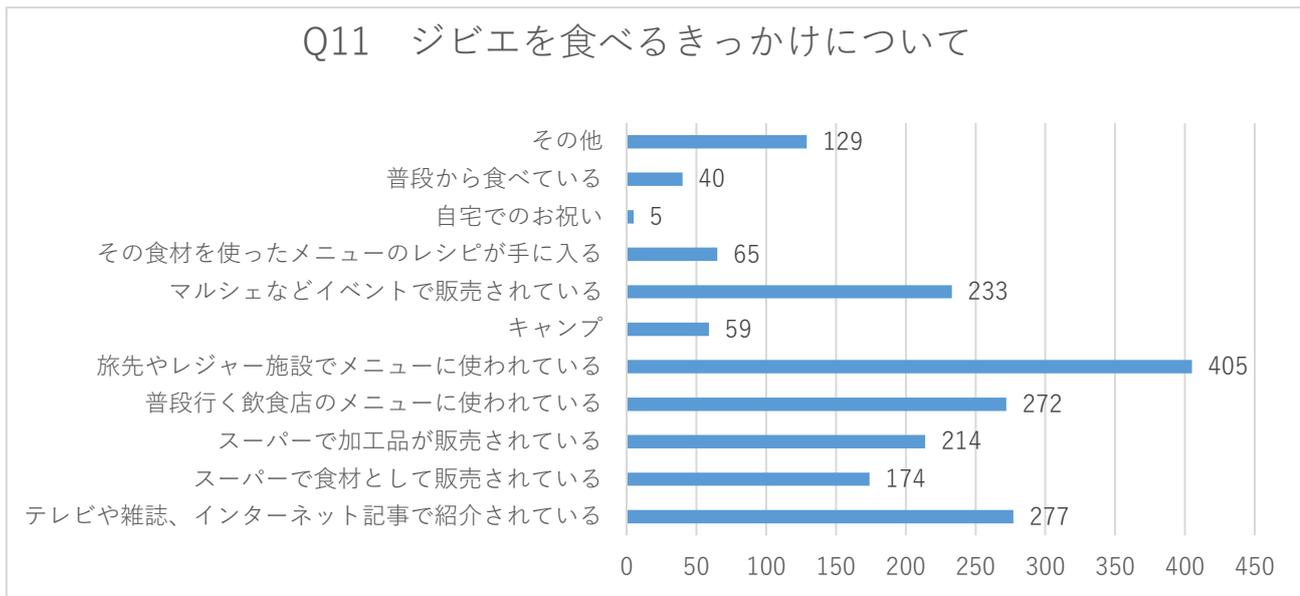


みえの安心食材制度について、「マークを知っている」は 23%、「マークを見たことや、制度の名称を耳にしたことはある」は 33%、「マークを知らなかった」は 44%となりました。

半数以上の方が「みえの安心食材」について認識があるとなりましたが、知らなかった方もほぼ半数であり、制度のPRをさらに拡大していく必要があります。

Q11 ジビエを食べるきっかけについて

ジビエを食べるとしたら、きっかけはなんですか。あてはまるものを3つまで選んでください。(複数回答)

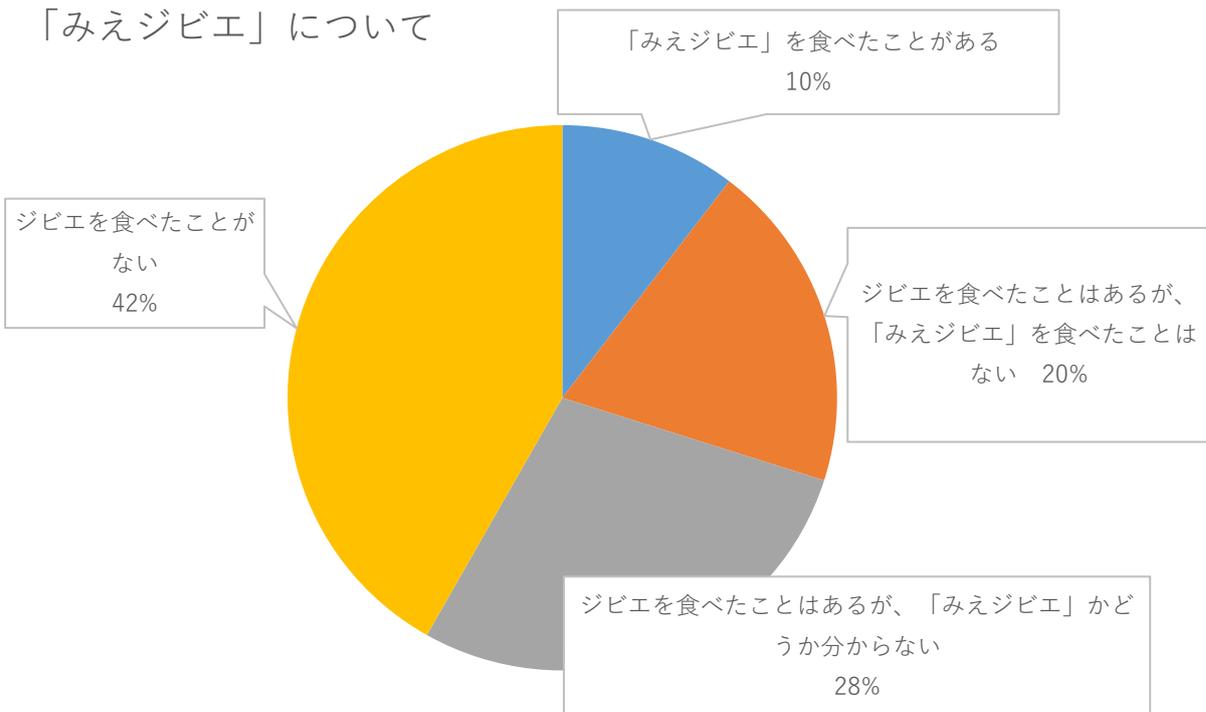


合計で1873の回答がありました。「旅行やレジャー施設でメニューに使われている」が405人で最も多い結果となりました。次いで「テレビや雑誌、インターネット記事で紹介されている」が277人、「普段行く飲食店のメニューに使われている」が272人、「マルシェなどイベントで販売されている」が233人となっており、個人によって様々なきっかけがみられる結果となりました。その他の回答では、近所の人・猟師の知り合いなど、他人からもらうとの回答がありました。また、そもそもジビエを食べたくない、野生の肉に抵抗があるとの回答もありました。

Q12 「みえジビエ」について

あなたは、「みえジビエ」を食べたことがありますか。(択一)

Q12 「みえジビエ」について



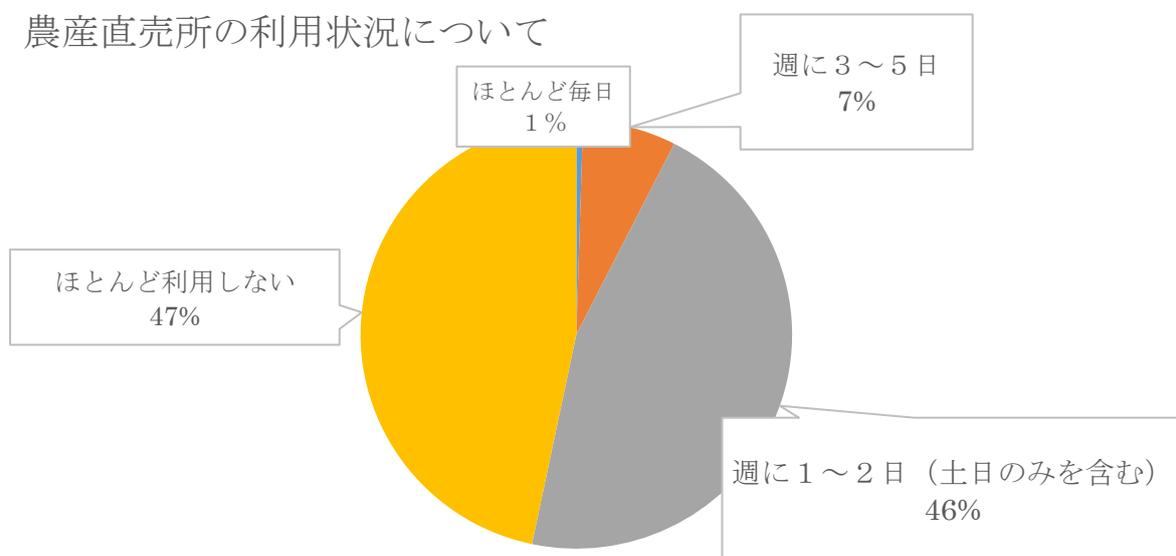
「みえジビエを食べたことがある」が10%、「ジビエを食べたことはあるが、「みえジビエ」を食べたことはない」が20%、「ジビエを食べたことはあるが、「みえジビエ」かどうか分からない」が28%、「ジビエを食べたことがない」が42%となりました。

約6割の方がジビエを食べたことがあったことが分かりましたが、みえジビエを食べたと答えた方は1割に留まることから、よりPRを推進していく必要があります。

Q13 農産物直売所の利用状況について

あなたは、農産物直売所をどのくらいの頻度で利用されますか。(択一)

Q13 農産直売所の利用状況について



ほとんど利用しないが47%と最も多く、次いで、週に1～2日が46%、週に3～5日が7%、ほとんど毎日が1%と、日常的に直売所を利用する方は非常に少ないことが分かりました。

Q14 直売所に期待することについて

あなたが農産物直売所に期待することを、自由記載でお答えください。

次のような意見が寄せられました。(多かった意見を抜粋しています。)

〔食の安心・安全について〕

- ・ より安価に安心安全に考慮した食物を届けてほしい。
- ・ 地場生産者の残留農薬ポジティブリスト制度の周知徹底による安全安心の確保。
- ・ 新鮮、安全、安さをうまく消費者に伝えることが必要かと思う。
- ・ 農薬の使用量や栽培方法等の安全基準管理を、生産者任せにせずチェックして欲しい。
- ・ 地産地消を進める上で、品質の安全性を数値化した表示明記と、レシピも合わせてコーナーに提示して頂きたい。

〔品質、鮮度について〕

- ・ たまに鮮度、日付管理がされていないものがあるので確認して買うようにしている。品質管理について定期的な確認と指導をすることで地産地消を推進していただきたい。
- ・ 実際に目にして手に取って新鮮さ、品質の良さを確認できること、安く手に入ること。
- ・ 新鮮さと味など品質の良さと価格の割安感。
- ・ 適切な管理・指導のもと、季節にあった食材を、良い品質のもの提供。
- ・ 品質管理。基準や管理体制を生産者も含めてもう一度周知徹底する必要がある。
- ・ 鮮度、価格、品質、他県に比べて三重県はこれらに劣っていると思う。スーパーで買った方が新鮮で美味しい品が多いと感じる。
- ・ 地域の生産者が育てた野菜は安心感があり、少しでもお値打ちに購入出来るので気にして見てはいるが、鮮度が悪い物があり期待外れがある。購入意欲を落とす結果となりますので、鮮度管理を徹底していただきたい。

〔価格について〕

- ・ 安さについて、特産地の商品価格とあまり差がないように感じられる。
- ・ 価格的に割高と感じることが多い。他県産と比べて運送費などが抑えられているはずなので、もう少し何とかならないものか。
- ・ 良い意味で農産物の差別化をすること。商品のクオリティを高めることになるので安心感が増す。当然ながら価格は少し高くなるが満足度感が得られる。
- ・ よく直売所を利用しており、
- ・ スーパーなどの価格を参考に価格を決めているようで、あまり魅力を感じない。あまり参考にしないようにしてほしい。

〔スーパーとの比較について〕

- ・ ”約6-7年前から直売所があると利用しているが、初めの頃に比べて商品自体少なく、スーパーの値段と大差ないことが残念。
- ・ 新鮮さも始めの頃と比べ、あまり変わらない。スーパーの方が美味しかったりする。
- ・ 時々知らない名前の商品があると気になるので、調理方法などを紹介してほしい。
- ・ スーパーでは見かけない野菜があると、子供たちの食育につながり購入するので、そういった商品が欲しい。
- ・ 直売所は安心感があるので、旬の野菜を置いてほしい。
- ・ 見た目が悪くスーパーで売れない農作物や、規格外品等も割安で販売してほしい。
- ・ 新鮮さと、一般的なスーパーの食料品売り場には馴染みのない野菜がおいてあること。
- ・ どういった味が想像出来ない物は興味が惹かれるので、食べ方のポップと一緒に販売して食の楽しみの一環の場であってほしい。
- ・ 直売所がもっと身近になり、日頃から自然と利用できる環境の整備。例えば、行政やスーパー

だけでなく、個人も販売場所を提供できるような工夫があってもよいのではないか

- ・ 価格。スーパーより安く生産者がわかりやすいのがメリットと考えるためそこに徹底的に拘って欲しい

〔その他〕

- ・ 購入した野菜に虫が大量についていたことがあり、直売所には抵抗がある。
- ・ 少々傷物でも見た目良くなくても、地元で作られたものは、愛着が湧くので購入する。
- ・ お料理やお花などのワークショップや子ども向けのイベントがあれば行きたい。また広報が SNS などですてくると気づきやすくなり行きたくなる。
- ・ フードロスなくす取り組み（例えば 規格外野菜の廉価販売）や、電気、石油を使わない生産の支援が必要。
- ・ ある程度は B 品でも出さない指導も必要なのではないか。
- ・ ”県として『地産地消』や『地元食材』などの言葉の意味を統一化し、扱う店舗への周知徹底を行ったほうがいい。
- ・ 近所に直売店があるかどうか知らない。あれば利用したい。
- ・ 他県民にはその土地の食材の味や調理方法がイメージ出来にくいので、特産品の調理一覧が閲覧出来る HP 等を検索出来たら、手に取る機会も増えるかもしれない。
- ・ ”農薬散布が、どの程度使用されているのか不明なのが気になる。直売所には、最低減農薬栽培したものを置いてほしい。
- ・ いつどこに行けば何が手に入るのかといった情報提供をしてほしい。
- ・ 高齢の生産者がより簡単に持ち込めるような仕組み作りが必要。
- ・ SNS に値段と写真入りでアップしてくれると欲しいものを手に入れやすい。アップしていても値段がないと行くかどうか決めにくい。
- ・ たまに他県のものが混じっていて見分けがつきにくいので、他県のコーナーは別にして欲しい。
- ・ 無農薬や有機野菜のコーナーを作り、オーガニックをもっと取り入れることを期待している。
- ・ 県内産より～市まで記載があると、更に親近感が湧くので思わず買ってしまう。
- ・ スーパーで気軽に買えたりするとより買いやすいので、連携してネットで買いやすい環境を作ってほしい。